

2024年 4月 1日

(3月24日予稿)

令和六年度（2024年度）入社式 式辞

（スピーチ用構想原稿_文書版）

株式会社 アイヴィス

代表取締役社長 石和田 雄二

< 目次 >

1. はじめに
2. 復活するか日本経済
3. 課題解決の役割を担う IT サービス
4. 当社の概要と IT サービス、その過去と現在
5. 大変革期の渦中にある IT サービス
6. 時代の半歩先へ、変貌するアイヴィス
7. 未来を拓く若者への期待
8. おわりに

1. はじめに

☆ 御茶ノ水駅前の外堀通り、神田川沿いの檜の葉芽が門出を祝う。

3月の冷え込みの余波か、都心の桜並木はまだ咲いていないが、
神田川沿いの檜の先端には、薄っすらと葉芽が広がる。

春4月、変わらぬ自然の営みに触れ

新たな人との出会いを前にすると、希望が湧き、心が洗われる。

皆さんにとっても、待ちに待った社会人としてのスタートです。

去年はコロナ禍の元での入社式、全員がマスクをしていたが、

今年はコロナ明けの初めての入社式、マスク着用は自由だ。

新入社員107名の希望と期待に満ちた皆さんの表情から

ITサービスの新時代を拓く若者達の情熱が

ひしひしと伝わってきます。

本日は、当社アイヴィスへの入社、おめでとうございます。

☆ 日本は少子高齢化で課題山積、未来を拓くのは若者とITだろう

先進ITを駆使する若者達が日本の新産業革命への道を拓く。

高い目標を持った挑戦は、困難と表裏一体、

夢を大きく、困難を超え、仲間と共に新時代を拓いてほしい。

2. 復活するか日本経済

☆ 2月後半、東証日経平均株価が34年ぶり最高値を更新した。

1989年バブル期最後に記録した3万8957円が従来の最高値。

3月4日、日経平均株価は終値で4万円を突破した。

背景にあるのは円安、

大手製造業を中心に業績を底上げした。

不況中国から撤退する欧米投資資金の流入も株高を演出した。

企業業績の向上と春闘の物価上昇率超える賃上げ見通しから、

日銀は15年振りのマイナス金利の解除に踏み切った。

失われた30年のデフレ経済からの脱却だ。

欧米など海外のインフレ抑制の高金利政策が円安の背景、

企業の競争力が高まった訳ではないが、

収益上は大幅な好決算となる。

それがあつての賃上げ、

経済は循環、景気回復へ千載一遇の好機到来だ。

国内消費を媒介に、再び、日本経済は復活するのか。

○ 34 年来の株高とデフレからの脱却、日本経済は復活へ踏出す

2 月後半、東証の日経平均株価が 34 年ぶり高値を更新した。

背景にあるのは円安、

製造業中心に輸出企業の利益膨らみ大手の 8 割方が増収増益、

円安背景に中国投資撤退の欧米の流入資金も株高を演出した。

輸入原材料、エネルギーの高騰とそれに牽引された企業の製品

値上げによって日本経済のデフレ体質の構造に亀裂が入った。

春闘を迎え、高収益の輸出企業に加え、値上げで設けた企業も含

め大手企業が軒並み、物価上昇率超える賃上げを宣言した。

企業業績と賃上げ見通しから植田日銀は、

3 月 19 日、15 年振りのマイナス金利解除に踏込んだ。

バブル崩壊以来の何度も試みては失敗した「失われた 30 年」の

長く続いたデフレ経済からの脱却である。

地政学的なリスクもあり、

製造業の日本回帰や半導体など海外企業の日本投資も続く。

これからは、利上げと共に、徐々に円安は解消に向かう。

それは又、金利前提の健全な経済への復帰であり、

日本経済が復活、IT サービス投資が本格的に動く予兆なのか。

3. 課題解決の役割を担う IT サービス

☆ 日本経済復活で見えてくる日本の課題と IT サービスの役割

日本は、ドイツに抜かれて世界の GDP 順位が 4 位に転落した。

為替の問題もあるが、少子高齢化による生産力低下が原因だ。

前年の出生者数は 75.8 万人、

戦後の高度成長期、団塊の世代は 250 万人超だったが、

今やその 1/3 以下、徐々に減って来てコロナ期間に激変した。

一方で健康福祉大国の日本は高齢者が元気なので、

一時的とはいえ、若者の負担も大きくなる。

経済が復活すれば、この課題が再び大きく浮上して来る。

必要な対策は、目先の少子化対策ではなく、

生産年齢人口の引上げと

生産者一人当たりの労働生産性の抜本的な向上だ。

課題解決は、産業界と共に、

社会全体に於ける生産性の向上となる。

その為には、最新 IT を活用した一人一人の能力向上となる。

○ 金融政策正常化後の本格的景気回復には課題の解決が必要だ。

目先的には人手不足と地政学リスクが目前に立ちはだかる。

働き方改革の 24 年問題の表面化、原材料価格の高騰、

サプライチェーン含む業態再編成、等々、

ビジネスモデルの見直しと共に

生産性の高い企業への脱皮を促すことになる。

これらの根本に横たわる問題は、日本の少子高齢化の問題、

生産年齢人口を減らし、国民一人当りの生産性の低下を招く。

若者たちの勤労意欲を下げている面もある。

先進国の人口は容易には増えない。

前年の出生数は 75.8 万人だ。

それ以上に問題なのは、日本の生産性の悪さだ。

23 年度の OECD 調査では 38 か国中 30 位と低迷している。

DX 推進も必要だが、ホワイトカラーの生産性が低いことだ。

従来型の IT を活用した生産性向上を進めることも重要だが、

若年層や中高年層の知的労働を支援する IT の活用が必要だ。

自動化省力化、商流物流の合理化、ビジネスモデル改革、等々

AI など先端技術を活用した新 IT サービスの出番となる。

4. 当社の概要と IT サービス、その過去と現在

☆ 当社は、昨年 11 月 10 日、会社創立 35 周年記念を迎えました。

1988 年 11 月、IT サービス専門企業として大田区蒲田で創業、社名はアイヴィス、IVIS の音読みです。

視覚による世界、画像と認識、その対象の 3D 実体と属性など、モノづくりと共に人工知能開発の専門企業を目指し、一晩考え、社名を「Intelligent Vision and Image Systems」とした。

IT の良い所は、経営や営業でも、分野では農業でも医療でも、製造や物流でも、レジャーや芸術工芸でも広く役に立つことだ。

当社では、このシステム開発を IT ソリューションサービス (ITSS) と称して、創業期から継続して行っている。

IT サービスこそが、生産性向上という問題解決の基本となる。

しかし、ITSS は人や組織と共存分担するシステム、人を介してシステムの連携を計る為、もう一段生産性向上が進まなかった。

最近の AI は人の知的作業を支援、代行までする様になっている。

当社には、ITSS と共に、先端を追続けて来た伝統と文化がある。

○ 当社は、先端技術と ITSS でこれからも課題解決に貢献する。

この伝統の技術は現在、設計製造や先進技術の IT サービス、
トヨタや NTT データ、国の委託研究などに受継がれている。

自由曲面形状やソリッドモデルなど 3D モデリング技術は、

現在も設計製造分野で必要不可欠な技術だが、

今では、デジタルツインの中核技術、動静に関わらず実物体の

Cyber 空間での表現技術、見える化に画像処理の対象となる。

デジタルツインは、メタヴァースの基本要素であると同時に、

これに物理や経済現象などの多様なシミュレーション機能群と

無数の IoT に次世代の 6G「IOWN」の超高速通信が加われば、

理想の CPS (Cyber Physical System) の世界が実現する。

当社 ITSS 部門は、業種分野別に専門化され、社会公共、設計

製造、販売流通の 3 本部と地域支社の 2 事業部に分かれ、

その下で分野別の顧客対応サービス技術部で構成されている。

ITSS 部門共通に専門技術支援を行う基盤技術本部があり、

クラウドネイティブなシステム基盤を前提に、データレイクや

コンテナ、マイクロサービスなどモダナイゼーションと共に

アジャイル、ローコードの開発環境と実行制御等を支援する。

5. 大変革期の渦中にある IT サービス

☆ IT サービスは今、変革期の渦中、今後 10 年間で益々発展する

端末の進化と共にアーキテクチャとプラットフォーム軸に、
顧客主体の新たな IT サービスが生まれ成長し、変革が進む。

所有から利用、経験者の論理からデータに学ぶ時代へ、

スクラッチの新規開発からアセット活用時代へ、

IT ベンダーから顧客中心の時代へ、

旧体制は徐々に崩れ去り、IT サービス産業に生まれ変わる。

愈々、技術変化に適応性の高い若者が活躍する時代となる。

そこに昨年現れて世界中で話題になったのが「生成 AI」だ。

複数の言語間の翻訳は勿論、長文の論説の要旨を纏める力、

どんな質問にも深い経験と豊かな知性があるが如く応える。

応用分野が幅広いので、生成 AI の生産性向上効果は大きい。

業態革新の DX と共に

「生成 AI」が加わった IT サービスは日本の課題を解決する。

少子高齢化課題を解決、豊かな日本を支える上で IT の進化とそ

れを社会実装する IT サービスの重要性は益々大きくなる。

○ コロナ明けで DX<Digital Transformation>が本格的に動く

情報のデジタル化が進むと、

縦割り社会、企業の縦割り組織を超えて

企業全体、社会全体としての全体最適化が進んでゆく。

クラウドとデジタルツイン、CP システムがこれを支える。

サイバー空間を通じて、

クラウドは所有から利用を促し、

デジタルツインは、現実世界をモデル化して

Cyber Physical System が問題課題を先取りし解決策を示す。

コロナ禍を経て On-Line 会議などの遺産が新たに常態化する。

コロナ時代の IT サービスの有効な仕組みも遺産として残る。

人材再教育のリスキリング用の講義や講演、授業

情報端末を加えたテレワークが一段と進み、

空間時間を超えた情報共有、議論や会議も社会的に定着する

○ この流れの上に、LLM の生成 AI が加わり、状況が一変した。

2012 年以降、ヒントン教授とその教え子達が開いた深層学習

を軸とする第 3 次 AI ブームは、多くの実績を上げて来たが、

その適応分野と学習コストから、何れ終わると見られていた。

そこに現れたのが、

昨年のアルトマン率いるオープン AI 社の「生成 AI」だ。

複数の自然言語で翻訳は勿論、長文論説の要旨を纏める力、
どんな質問にも、深い経験と豊かな知性があるが如く応える
能力は言語という応用の広い分野だけに世界を驚嘆させた。

大規模言語モデル LLM などのファウンデーションモデルを使う
AI の潜在可能性は知られており、

GAFAM 各社は、密かに開発を始めていたが、
その先陣を切ったのが、陰の主演オープン AI の GPT 4、
それを世の中に広めたのがオープン AI 社を取込んだ MS だ。

その応用可能性の広さと深さに、各社利用分野の開拓を始め、
安全保障や経済上の課題解決に国を捲込んで喧喧諤々だ。

GAFAM も新興 AI 各社も、画像や動画音声も取込んだ
次代のマルチモーダル生成 AI の開発に資源を集中している。

○ AI 時代の始まりであり、IT サービスの成長は 10 年以上続く
データと AI を牽引車に他の急速に進む IT トレンドも加えて
日本の IT サービスの成長期は、今後 10 年以上続くだろう。
しかもその先には、6G や量子コンピュータが出番を待つ。

6. 時代の半歩先へ、変貌するアイヴィス

☆ **新たな使命を担い、当社は先進 IT 技術の発展と共に、進化する。**

皆さんを加えて当社の現社員は 840 名、平均年齢は 33 歳です。

AI を中心とする先端技術人材が 120 名、基盤系 80 名を加えて先進技術者 200 名、国の大型研究 2 案件、その他、先進企業や研究機関との委託研究を通じ技術導入と人材育成を図っている。

これだけの先進技術者が揃っている IT サービス企業は少ない。

今年、TS（トヨタシステムズ）と BIPROGY の資本参加を得て、NTT データと共に、将来を拓く大手 3 社との連携体制が整った。

IT サービスの大変革期の渦中にある今、会社の成長条件は、

未来を拓く人材： 人がいても人材がいなければ不可能

企業経営の安定： 人がいても顧客がなければ不可能

優れた価値生産： 顧客がいても専門技術なければ不可能

変革を支える力： 専門技術あっても特色なければ不可能

持続的な成長力： 特色があっても信用がなければ不可能

当社は今、上記条件が揃いつつある可能性溢れる立位置にいる。

業界仲間も多い。後は我々自身の構想力と日々の努力の積重ねだ。

○ 事業面で見た現状の当社とその成長可能性、将来方向に触れる

平成の30年間は、バブル崩壊から金融不況、世界同時不況、リーマン危機、東日本大震災と、歴史に残る動乱期だったが、この間、創業時の3名から社員が500名を超えるまで、当社は一度も赤字にならず、業績を積上げ信用を築いてきた。その最後の5年間は当社の大きな技術転換期、当時成長著しい深層学習に将来性を感じ、社内にAIシフトを敷き技術導入と人材育成を進めていた。それが社員規模500名の余裕と先行した先進技術の高さに重なり信用が拡大、国の大型研究委託やNTTデータとの資本業務提携に繋がった。人材の採用も順調に進み、この3年間は売上も20年43億から53億、63億と二桁成長、前期は踊り場で7%増の67億となるが来年以降再び二桁に復帰、26年度には100億に近づく予定だ。

○ ITの一大変革期の今、構想大きく将来へ向けて戦略シフト

会社は計画が必要、達成への努力の中で成長が保証される。中期計画「IVIS IT 2030」は、当社の環境変化踏まえ作り直す。当面の今年度から始まる「新基盤整備3ヶ年計画」に触れる。2027年3月期を最終目標に社員1千、売上90億円超を目指す。

成長基盤以前にリスク要因でもある経営体制を抜本的に固める。
初年度の今年は、経営基盤として取締役副社長を 2 名擁立する。
代表取締役の私が経営の全責任は負う中で、一部業務を委譲し、
能力を評価、次年度決算の来年 5 月の総会で私は社長を退任、
代取会長として新任の代表取締役社長と共同経営を担う。
並行して成長基盤として経営企画及び管理部門を再編再構築、
資本参加 3 社出身者と生抜きのペアで現場を任せ、専門案件の
安定導入と人材育成を図り、役員会議常態化、組織経営に踏出す。
最終年度の目標の一つは、大阪支社 250 名体制での経営自立化。
27 年 3 月期が終わる 4 月の要員目標は、BP 要員を 1 割強加え
本社サービス社員 400 名 古屋 200 名 大阪 300 名の 900 名を想定、
その他、技術研候補要員 100 名を擁し本社の中部移転も視野に
26 年度決算目標、売上高 90 億円超、利益 6 億超に挑戦したい。
達成後、27 年 5 月に代取会長辞任、新経営体制下で会長に就く。

○ **来期の業務面の取り組みと資本参加 3 社との関係とその役割**

資本参加 3 社の中、NTT データと TS は IT の研究開発と利用面の
国内最高級の企業、当社は、両社に学び信用と技術導入を図るが、
本命は BIPROGY、同社と共に日本の IT サービスの近未来を拓く。

7. 未来を拓く若者への期待

☆ 技術変化が激しい時代は、基礎知識と自ら考える力が大切

先端技術が実用化段階に入り、実用化への課題解決が技術者の重要なテーマとなる中、定型的な仕事の仕方では成長はない。

最先端の知識を身に付けながら、そこで出会う問題解決には、自ら調べ考え、その上で先輩専門家の指示を仰ぐことが大切だ。

新人の皆さんは、経験を経て技術者へと育って行く立場にある。

主体的な努力と共に、現場現実学び、不明な処は外部の知恵や技術に学ぶ、臨機応変な技術者の姿勢と行動力が要求される。

私が毎月、社内向けに作っている「予定業務と要員配置計画」に書いている新年度4月版のメッセージを皆さんに贈ります。

「人は仕事を通じて成長する。

人は目標を立て、そこへ向かう努力の中で成長する。

人は計画を遂行する過程で出会う課題や問題を超越成長する。

高い目標を目指すことは、未知の分野に踏込むこと、問題や課題に出会うのは当然だ。そこで怯めばそれで終り、そこを超越する意思と耐力、社会的情熱が己を磨き、人を人にする。」

○ 通俗的だが、ハウツウ的なメッセージも加えておきます。

まず第一歩は、IT 技術者として基礎力を身に付けて下さい。

その上で、経験を積んだら技術者としての初心に帰る。

☆ 現実の仕事に真剣に取り組むこと。

① 仕様を理解すること。不明を放置しない。

② 解への論理を組み立てる。曖昧さを放置しない。

③ 簡潔表現に努め全体見える化。報告を放置せず。

☆ 知識体系化と能力客観化の為、情報処理資格を取る。

① 1年で応用技術者資格、

② 3年でDB、5年でPMの専門技術者資格

③ 業務を通じて著名な大手ITベンダーの専門資格

クラウドで、AWSやGCP、Azureの資格

アソシエイトからプロフェッショナルへ

☆ 実装論理を考え、その先の問題解決への構想力を磨く

① 実装問題の背景にある課題を理解する。

② 解決方法を他の人と議論する。

③ 納得するまで、PDCAを繰り返す。

④ 現場現実に関し、学び書に学び、人間的成長を目指す。

8. おわりに

☆ 東急会長の野本弘文氏の言葉を、新社会人の皆さんに伝えたい。

「東急グループの本拠地である渋谷の駅周辺では、『100年に一度』の再開発が今なお進行中だ。会社人生の中で、かねて私が温めていたイメージが一つひとつ実現している。こう書くと組織の本流を歩んだキャリアを想像する方が多いかもしれない。だが事実は真逆。入社半年後の配属は、地方に飛ばされ・・・。

どこにいても、目先の仕事とは別に会社の将来像を描く企画書を個人的に作るのが好きだった。こんな未来に向けこんな仕事をしたいたい・・・。夢や希望は誰でも持てるが、『志』がなければ夢は実現しないという言葉が若い時から大事にしていた。」

これは日経新聞 3 月の「私の履歴書」に載った本文からの引用です。

実は、野本会長のお兄さんは、自分のユニバック時代の同僚です。

明るく前向き、構想豊かな技術者であると共に仲間達への気配りと共に飾らない人柄、役員手前で病に倒れたが、文章を読んでいると、将来を囑望されつつ逝った故野本雄一先輩の話を聴いている様だ。

人生何が起きるか解らず天運に任せるしかないが、与えられた環境の中でベストを尽くせば、その志は個人を超えて次代に引継がれる。

☆ 最後に、例年の入社式で使う「おわり」の言葉を掲載して置く。

日本の将来を担う若者達、

視野広く IT サービスを通じて社会貢献を心がけてほしい。

会社や個人を超え日本の未来を拓く IVIS 社員に育って欲しい。

◇◇ 今日から社会人。

視野広く世の中の在り様を冷静に観察する。

歴史と歴史上の人物に学んで、考え行動する力を磨く

社会的関心と共に将来への夢を描き、目標へ向かって努力する。

◇◇ 今日から職業人

仕事を通じて学ぶ基本の軸をずらさず、自分を冷静に見直す。

基本の軸は 5 年後の自分の姿、具体的な行動に落とす。

3 年ごとにゴールを設定、節目で振り返る。

◇◇ 最後に、幕末の思想家・教育者、吉田松陰の言葉を紹介する。

夢なき者に理想なし。理想なき者に計画なし。

計画なき者に実行なし。実行なき者に成功なし。

故に、夢なき者に成功なし。 ——— 吉田 松陰

◇◇ 1 年後の皆さんの成長を期待する。

目標をもって、地道な努力を続けてください。 (了)